

令和7年度版

北埼玉地域の農業

水と緑、みのり豊かな水田地帯

～北埼玉農業の発展を目指して～



埼玉県のマスコット コバトン

地域農業の概要

北埼玉地域は、埼玉県の北東部、都心から50～60km圏に位置し、北側は利根川と渡良瀬川を境に群馬県、栃木県、茨城県の3県に接する標高16m前後の平坦地です。

肥沃な土壌と豊かな水に恵まれている北埼玉地域は、水稻の作付面積が7,910ha（令和6年産）と県内随一の穀倉地帯であり、「コシヒカリ」や埼玉県が育成した「彩のかがやき」の生産地として知られています。

また、麦や野菜（施設栽培のきゅうり、トマト、いちご、なす）、果樹（梨、いちじく）など多彩な農産物が生産されています。

項 目	単位	北埼玉地域	埼玉県	割合（％）
農家戸数	戸	5,100	46,463	11.0
耕地面積	ha	11,870	72,700	16.3
田	ha	10,240	40,600	25.2
畑	ha	1,626	32,100	5.1
農業産出額	億円	227	1,636	13.9
上位品目				
米	億円	81	305	26.6
野菜	億円	24	768	3.1
畜産	億円	25	280	8.9
麦類	億円	5	17	29.4

※農家戸数は農林水産省「2020年農林業センサス」

※耕地面積は農林水産省令和6年「耕地及び作付面積統計」

※農業産出額は農林水産省調べ（令和5年）

※端数処理の関係で合計が合わない場合があります。



彩の国
埼玉県

埼玉県加須農林振興センター

北埼玉の多彩な農産生産

主 穀

水稻の作付面積（令和6年産）は7,910haと県内の27%を占め、特に加須市は4,560haと県内一の産地です。夏期の高温対策として、暑さに強い「彩のきずな」「えみほころ」の導入及び高温時の管理技術の向上を進めています。



水稻穂肥検討会

麦は小麦、二条大麦を中心に1,478ha、大豆は201ha（いずれも令和6年産）が栽培されています。小麦は「あやひかり」、大豆は「里のほほえみ」、また枝豆用として「行田在来青大豆」などがあります。



大型コンバインによる麦の収穫



行田在来枝豆「さきたまめ」

水稻、小麦、二条大麦、大豆の種子生産が行われています。

特に水稻の「彩のかがやき」は県内の全ての種子が、令和8年からの一般生産が予定されている「えみほころ」も県内の9割の種子が管内で生産され、県産米の安定供給に役立っています。



採種生産物の審査会

土地利用型農業を中心に、RTK基地局による自動操舵システムやロボット田植機、ほ場管理システム、ドローン等のスマート農業の導入が進んでいます。



ロボットトラクターと田植機
の同調作業（加須市）



ドローンによる水稻播種

野 菜

きゅうり・なすは、主に加須市・羽生市で栽培されています。北埼玉地域では一元共販に取り組み、市場から品質の良い産地として高い評価を受けています。

あわせて新鮮さをアピールするため、きゅうりは花をつけたまま出荷する「花付ききゅうり」にも取り組んでいます。なお羽生市には、県内最初の選果場が設置されています。



新鮮なきゅうり

トマトは加須市を中心に促成栽培が行われています。特に北川辺とまと研究会は共同選果施設を整備し、食味や鮮度にこだわった栽培に取り組んでいます。



トマト選果施設

いちごは以前から加須市を中心に「とちおとめ」や「やよいひめ」「紅ほっぺ」が栽培されてきましたが、近年では市場等から高く評価されている県育成品種「べにたま」や「あまりん」がこれまでの品種に代わって増加しています。また、一部高設栽培施設を導入した観光摘み取りも行われています。



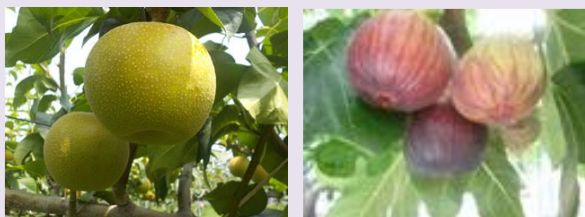
県育成品種「べにたま」

各市にあるJAの農産物直売所、道の駅等には、多品目の野菜が直売用に出荷されています。また、地産地消と食育を兼ねて、地元学校給食へも様々な野菜が提供されています。

果 樹

梨の栽培が盛んで、共同選果施設を活用した市場出荷に加え、直売など地場流通にも積極的に取り組んでいます。幸水、豊水の主力品種に加え、埼玉県が育成した「彩玉」も栽培されています。

また、いちじくの栽培も盛んで県内屈指の産地です。



加須市産の「なし」と「いちじく」

花 き

施設栽培を中心に、鉢物（洋ラン、シクラメン等）、苗物（ペチュニア、パンジー等）、観葉植物（ポトス等）や切り花（バラ、カーネーション等）が生産され、市場から高い評価を受けています。



鉢物(シクラメン)

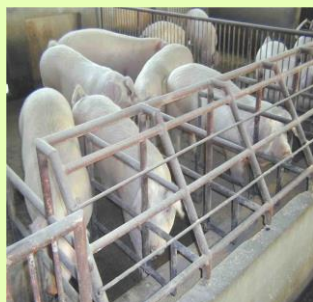


洋ラン(胡蝶蘭)

畜 産

養豚は管内を代表する畜産で大規模経営が見られます。あわせて、豚肉のブランド化に取り組んでいます。

近年では水田で飼料用子実とうもろこしの栽培が行われ、地域内養豚農家と耕畜連係の取組が進められています。



加須ブランド豚



子実とうもろこしの栽培

6 次産業化

農業者による農産物の生産・加工・販売活動が活発に行われ、まんじゅう・ジャム・クッキーなどの商品化が進み、農産物直売所などで販売されています。

特に、北埼玉地域を代表する伝統料理「いがまんじゅう」をはじめ、地域の特産である「いちじく」の加工品や「ホンモロコ」の煮付けなどのほか、近年は「ドライホンモロコ」や「いちごチップ」など素材を乾燥させて作った新商品が誕生しています。



いちじくジャム



ドライホンモロコ



「ホンモロコ」の甘露煮



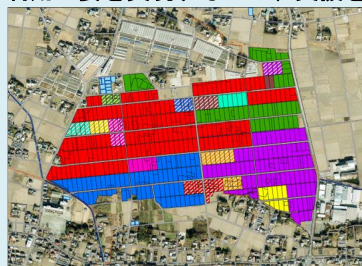
いちごチップ

農政の動き（農地の集積・集約の取組とS-GAP推進）

農地中間管理事業

管内では、担い手への農地の集積・集約化の取組を積極的に進めています。関係機関が強力に連携して事業推進を行い、県全体の実施（転貸）面積の約4割（5,060ha：令和6年度末）を占める県内一の先進地です。

また、管内各市が策定した地域計画で描かれた将来の農地利用の姿を実現するため、支援を行っています。



地域計画の目標地図（羽生市発戸地区）



地元役員との農地中間管理の会議

S-GAP推進事業

食の安全・安心確保や環境などに配慮した持続可能な農業経営の取組を進めるため、埼玉県独自のGAP（略称「S-GAP」）の普及を推進しています。

S-GAPの実践農場の拡大により、県産農産物の一層の安全性と信頼性の向上を目指しています。



S-GAPのぼり旗



整理された農薬庫

北埼玉の農村整備



ほ場整備事業

未整備や小区画のほ場の大区画化に加え、用排水路や農道を整備することで、生産性の高いほ場を整備します。

大区画化等により農作業が効率化できることから、担い手農家への着実な農地利用集積が期待されます。



整備前

整備後

水辺周辺活用事業（農業用水）

農業生産のために維持されてきた農業用水を身近な水辺としての魅力が実感できるように水辺空間を活用して水路や歩道等の整備を実施しています。



整備工事が完了した「会の川」



整備後のふれあいロード

多面的機能支払交付金

自然環境の保全や良好な景観の形成など、多面的機能を有する農地や農業用水路などは県民共有の財産です。しかし、これらの維持・保全を農業者だけで担うことは難しくなってきました。

当センターでは水路の泥上げや草刈り等の共同活動が交付対象となる「農地維持支払」や、施設の長寿命化や地域の景観形成、地域住民との交流などの普及・啓発活動が交付対象となる「資源向上支払」等の資金援助により、地域の活動を支援しています。



地域住民による農道の草刈り



子供会と芋ほり体験

加須農林振興センターの組織

部 名	担 当 名	担 当 事 務
管 理 部	総務担当	庶務、経理
	地域支援担当	農産物の生産振興、農地中間管理事業、遊休農地対策、地域計画、地産地消・食育の推進、農業災害、農産物の安全・安心、GAP、農業制度資金 等
	管理・農地担当	農地法・農業振興地域制度、食品表示 等
農業支援部	新規就農・法人化担当	新規就農の支援、農業の法人化・6次産業化の支援
	技術普及担当	加須市における農産物の栽培・加工技術の支援、農業経営の改善支援 等
		行田市、羽生市における農産物の栽培・加工技術の支援、農業経営の改善支援 等
農村整備部	整備支援・管理担当	農業農村整備事業の推進、土地改良施設管理 等
	県営事業担当	県営ほ場整備・かんがい排水事業等の実施
	工事管理・事業調整担当	農業農村整備事業の調整、進行管理



住所 〒347-0054 加須市不動岡564-1 電話 0480-62-4771
メールアドレス g624771@pref.saitama.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0907/index.html>

交通機関

加須駅から朝日バス
加須車庫行き加須車庫下車
徒歩 700m
加須駅から 2.5km